

**箕面市地域公共交通活性化協議会
第 1 回分科会**

平成 2 1 年 6 月

目 次

- 1 . バス交通の現状と課題**
- 2 . 新たなバス交通の必要性**
- 3 . これまでの検討経過**
- 4 . 協議会、分科会の概要**
- 5 . 全体スケジュール**
- 6 . 分科会スケジュール**
- 7 . 検討の枠組み**
- 8 . 検討に活用する資料**

1．バス交通の現状と課題（1）

■ 路線バス

箕面市内の循環は
36・37系統（箕面
山麓線）のみ

循環便の1日当
たりの利用者は
約440人

31便中、完全な
循環便は1日14便



東西の移動が困難
現在

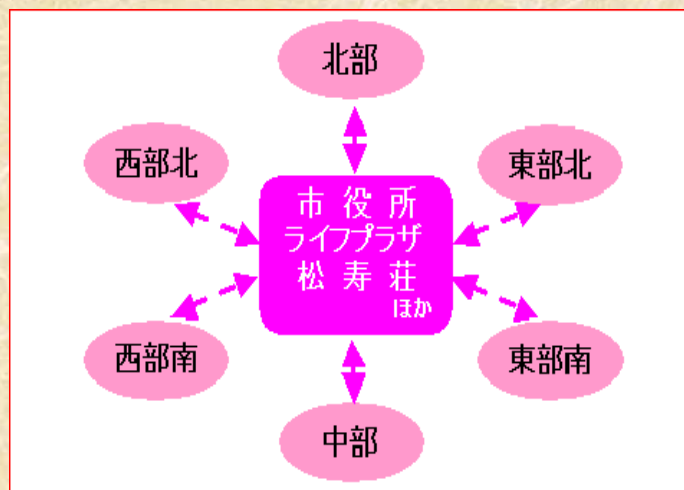
市外の千里中央駅や北千里駅へ
のアクセスは充実
千里中央発着 本数約 約1,000本/日
系統数 30系統
乗降者 約26,000人/日

鉄道駅へのアクセスのバスは充実しているが、
市内移動のバスは不足している

1．バス交通の現状と課題（2）

■ Mバス

- 市内の主要な公共施設へのア
クセスのために無料で運行
- ルートは全6コース
1日当たりの利用者は
約860人
6コース合計で1日39便
（月～土 運行）
北部は3、8の付く日に運行
- 利用したことがある市民13%



「買物などで自由に利用したい」
「利用するのに気が引ける」
「運行サービスを向上してほしい」といった要望が強い

2 . 新たなバス交通の必要性

市民満足度の低いバス交通に対して、路線バスとMバスを個別に充実させることは困難

■ 路線バス

- 市内移動の充実 採算面などからバス事業者だけの取り組みには限界

■ Mバス

- 運行サービスの向上 白ナンバーの自家用バスでのサービス向上には限界
- 買物などの利用 有料化してもよいので、気軽に利用したいとの要望が多い



地域の日常生活や社会生活における円滑な移動、市内の東西方向の移動を確保するためには、Mバスと路線バスとの連携又は一体化により市内移動を主とする新たなバス交通の整備が必要不可欠

3 . これまでの検討経過

箕面市内バス路線網整備研究会議 (平成18(2006)～20(2008)年度)

箕面市と阪急バスで、Mバスの路線バス化に向けて研究会議を設置

<調査> ・Mバス利用者アンケート調査
・市民満足度アンケート調査

●費用負担のあり方やサービス水準については、社会実験(計画策定・実証運行)を実施し、検証したうえで、本格運行を目指すことが最善策である。

●課題となる社会実験に対する市民などを含めた計画策定や実証運行費用については、新たな法制度を活用することが得策である。

箕面市交通ネットワーク 活性化検討協議会 (平成20(2008)年度)

国(近畿運輸局)が中心となり、大阪府、箕面市、豊中市、交通事業者、地域住民・NPO等の関係者で、公共交通の活性化に向けて協議会を設置

<調査> ・バス利用者意識調査

●鉄道駅へのバスネットワークの改善

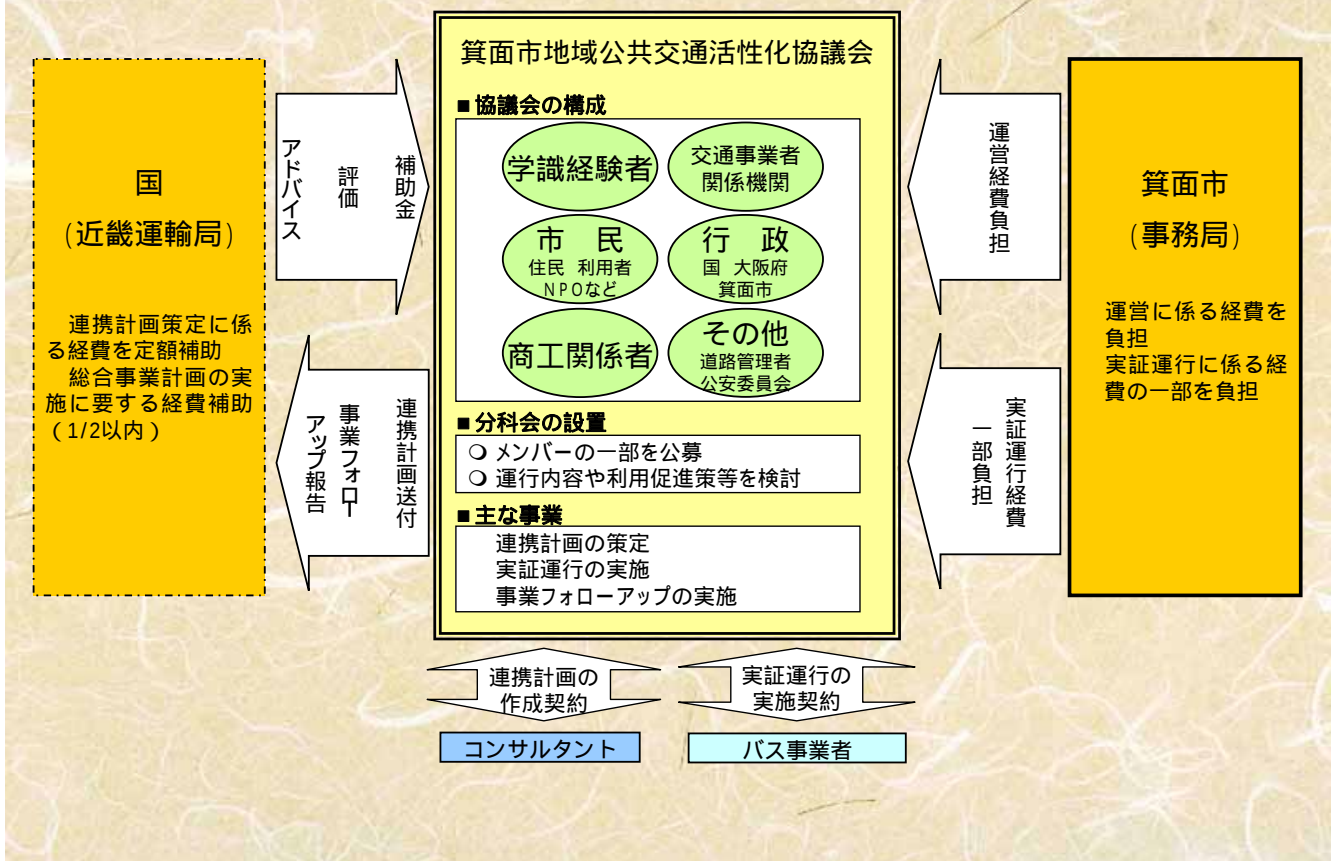
●市内移動のバスネットワークの見直しとして、Mバスと路線バスとの連携について、新たな法制度を活用して連携計画を策定し、実証実験を目指す。

箕面市地域公共交通活性化協議会

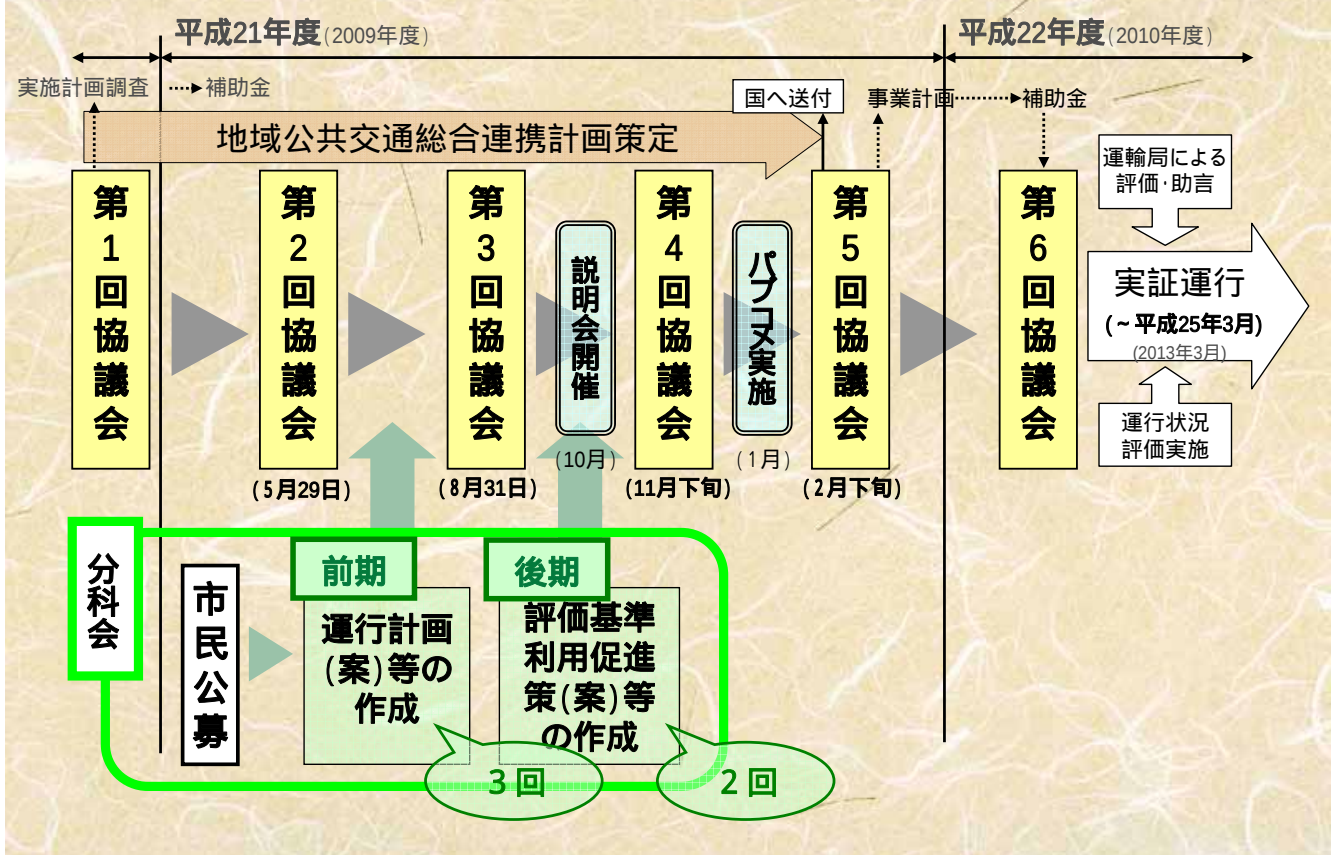
バス事業者・市などで
取り組みを開始

・バスマップの作成
・増便や運行時間帯の
延長など

4．協議会、分科会の概要

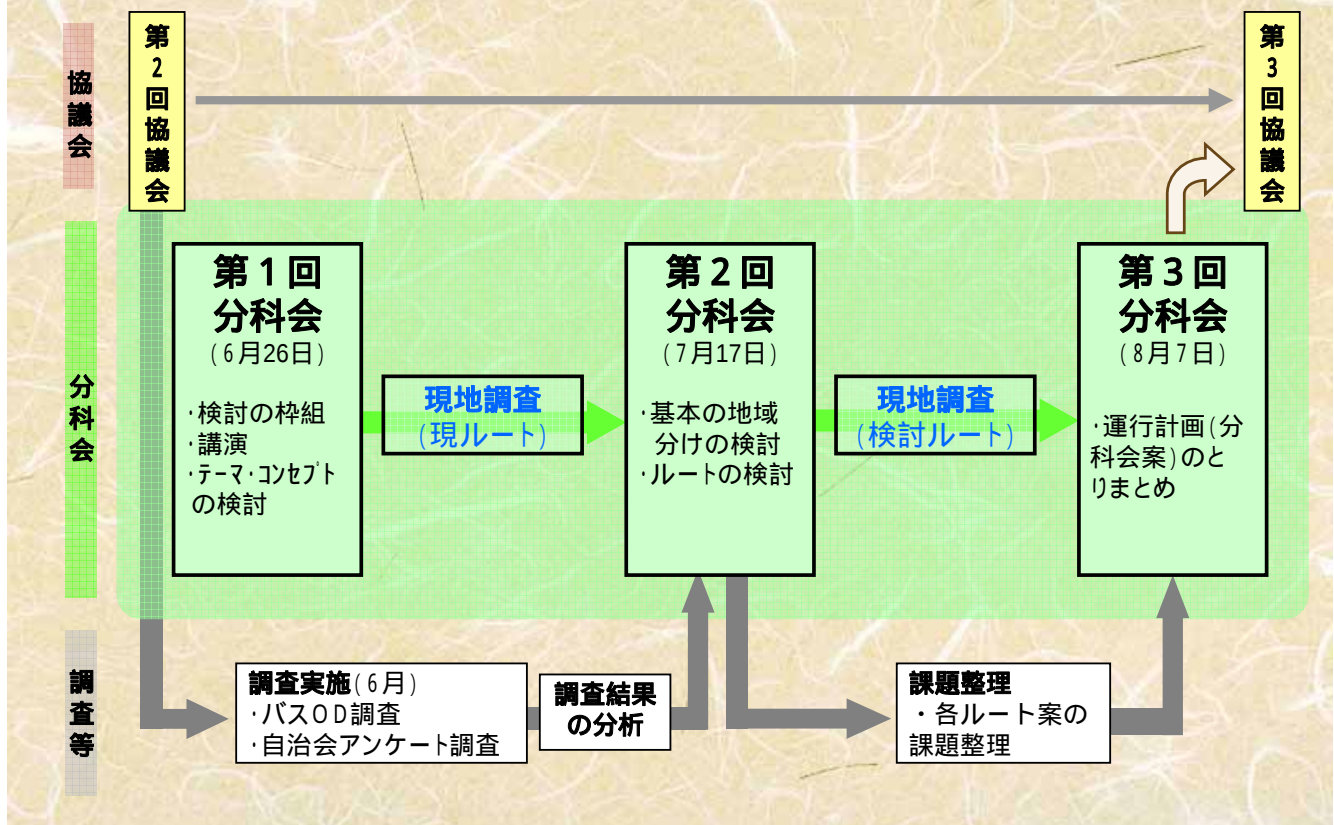


5．全体スケジュール



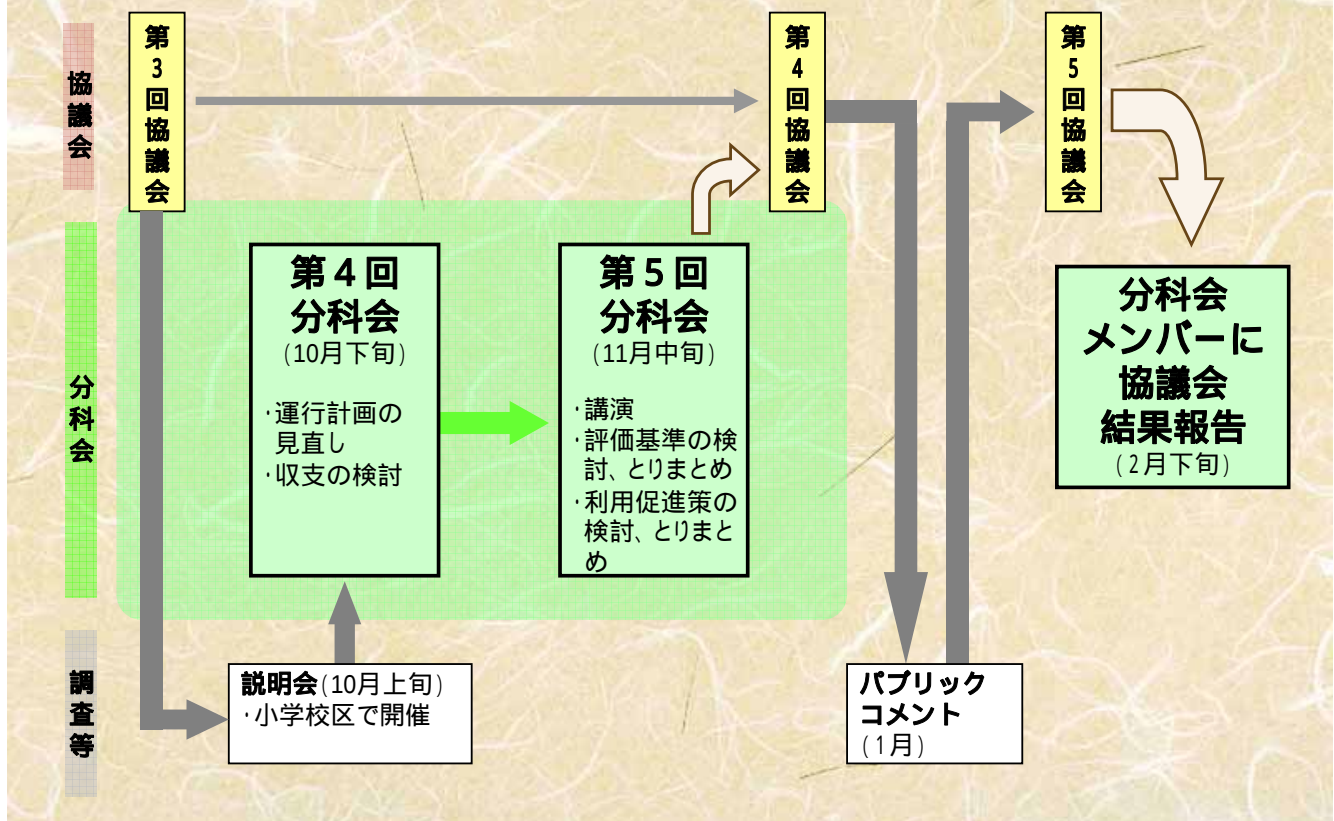
6．分科会スケジュール（１）

● 前期：運行計画（案）等の作成



6．分科会スケジュール（２）

● 後期：評価基準・利用促進策（案）等の作成



7. 検討の枠組み（1）

平成21年度
(2009年度)

市内の移動を円滑にするため、
新たなバス交通の計画をつくり、実証運行を目指す
(Mバスと路線バスとの連携又は一体化)

- 運行サービスを飛躍的に向上させる
- 誰でも乗れるようにする
- ただし運賃がかかります

計画づくりの前提条件

- 運行に必要な事業費は1億2000万円以内
- 運行事業費のうち、実証運行初年度は35%を運賃収入で賄うことを目標とする

平成22年度
(2010年度)
～
平成24年度
(2012年度)

国の補助も導入して
実証運行

事後評価（毎年度）
運行実績を点検・評価し、運行
サービスや費用負担を見直す

平成25年度
(2013年度)
～

運行サービスと費用負担のあり方を明確にして、
継続的な本格運行を目指す

著しく採算が合わない場合や、利用者が少なすぎる場合は、他の手段への転換も検討する

7. 検討の枠組み（2）

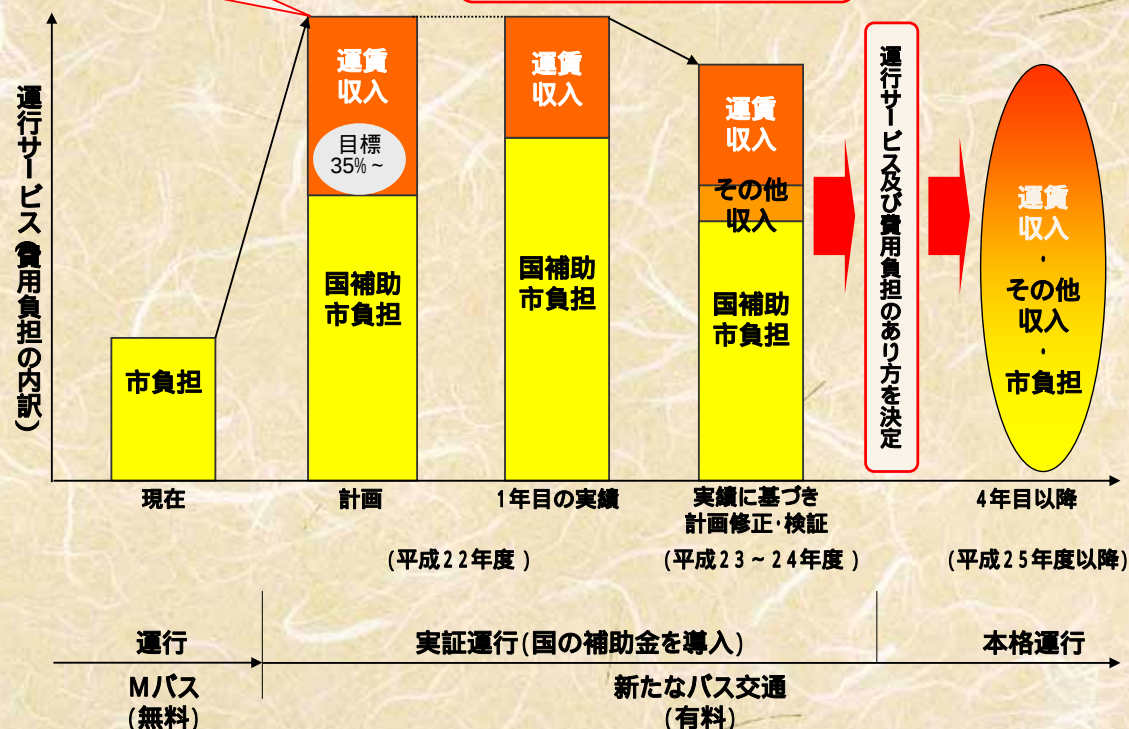
● 利用者が少ない場合

事業費:1億2千万円以内

利用者が少ない場合は、評価基準により
運行サービスを縮小

(運行サービス:走行エリア・運行頻度等)

(その他収入:広告収入・協賛金等)



- 平成 18 年度 市民満足度アンケート調査
- 平成 19 年度 Mバス利用者アンケート調査
- 平成 20 年度 バス利用者意識調査
- 平成 21 年度 バスOD調査（Mバス・路線バスの一部）
- 平成 21 年度 自治会アンケート調査

8 . 検討に活用する資料 (1)

● 平成 1 8 年度 市民満足度アンケート調査

- 認知度は、路線バスが 83% に対して、Mバスは 39%
- 利用度は、路線バスが 55% に対して、Mバスは 13%
- 不満に思うこと
路線バス：「運行時間帯」・「駅以外の行き先」の割合が高い
Mバス：「運行時間帯」・「情報」・「便数」の割合が高い



- 路線バス、Mバスとも運行時間帯・便数増加が必要。
- 路線バスは駅アクセスは充実しているが、東西交通を含めて行き先の充実が必要。
- Mバスはルートの改善が必要。
- 路線バスは若年層への、Mバスはバス停の位置に関する情報提供の充実が必要。

8 . 検討に活用する資料 (2)

● 平成 1 9 年度 Mバス利用者アンケート調査

- 利用者が多い公共施設：市役所、市立病院、ライフプラザ、松寿荘 など
- 自由な乗降りの必要性：「必要」「どちらかといえば必要」 67%
- 希望する行き先：箕面駅、箕面駅周辺施設、かやの中央 など
- 有料化の受容度：利用する 45% 運行してみないとわからない 28%
利用しない 19%
- 有料化に伴う改善の要望：増便 35% 終日運行 25% ルート変更 19%



- 自由な乗り降りを実現するための有料化を実施する際に、運行水準向上の検討が必要。
- アクセスルートは市役所、市立病院、箕面駅、かやの中央への検討が必要。
- 高齢者や障がい者への運賃の減免などの検討が必要。
- 松寿荘バス停位置変更のために、理解を得てもらうことが必要。

8 . 検討に活用する資料 (3)

● 平成 2 0 年度 バス利用者意識調査

- 箕面市内を循環するバス路線が整備された場合、バスを利用すると思う人
バス利用者 : 68.8% (利用しないと思う25.7%)
非バス利用者 : 44.1% (利用しないと思う18.1%)
- 箕面方面 (箕面駅・市役所等) への路線の新設・充実を求める意見が多い



- 駅アクセスが充実している地区でも、市内移動型のバスサービスが不足しているため、改善が期待される。
- 公共交通の利用促進のためにも、市内移動型のネットワークの改善が期待される。

8 . 検討に活用する資料 (4 - 1)

● 平成 2 1 年度 バス O D 調査 (M バス・路線バスの一部)

■ 調査対象

M バスの全コース全便、路線バス (阪急バス) の箕面山麓線 (36・37 系統) の循環便 (14 便)

■ 調査・質問項目

- 利用区間、時間帯
- 年齢
- 利用頻度
- 利用目的 (路線バスのみ)



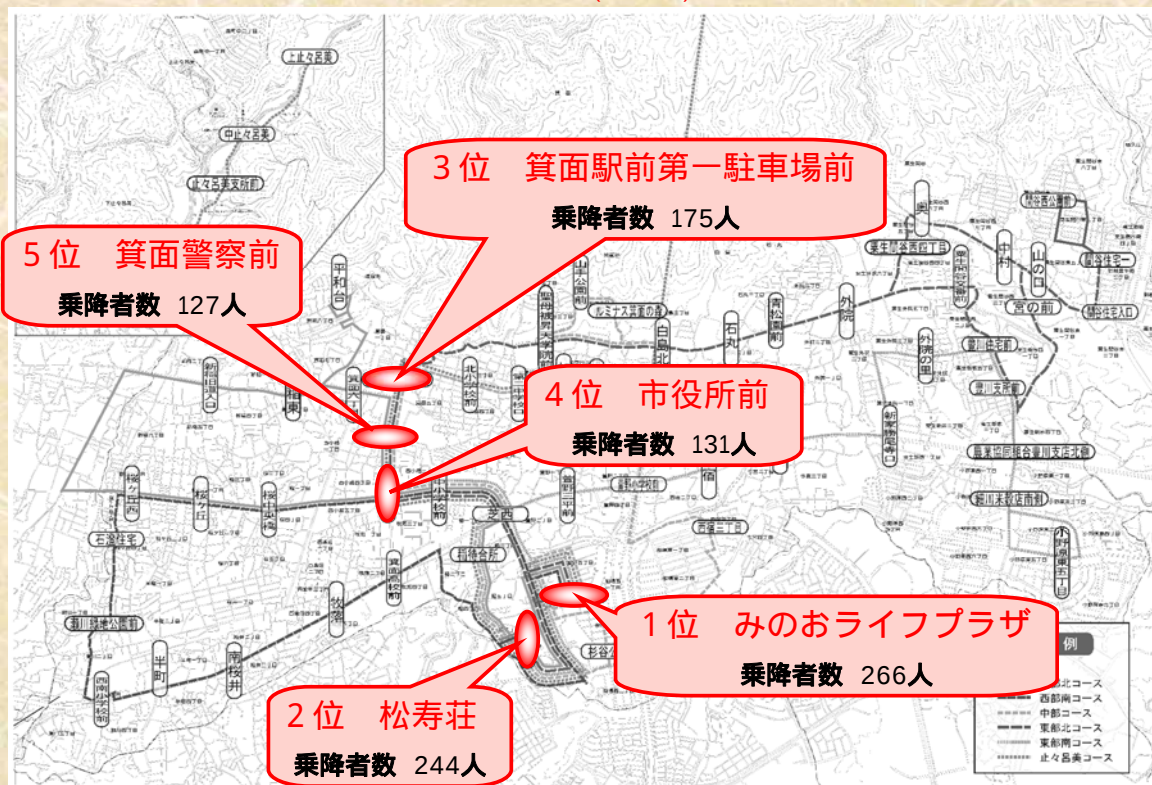
6 月 1 9 日 (金) に調査を実施

詳しい集計結果は第 2 回協議会にて

8 . 検討に活用する資料 (4-2)

● 平成 2 1 年度 バスOD調査 (Mバス・路線バスの一部)

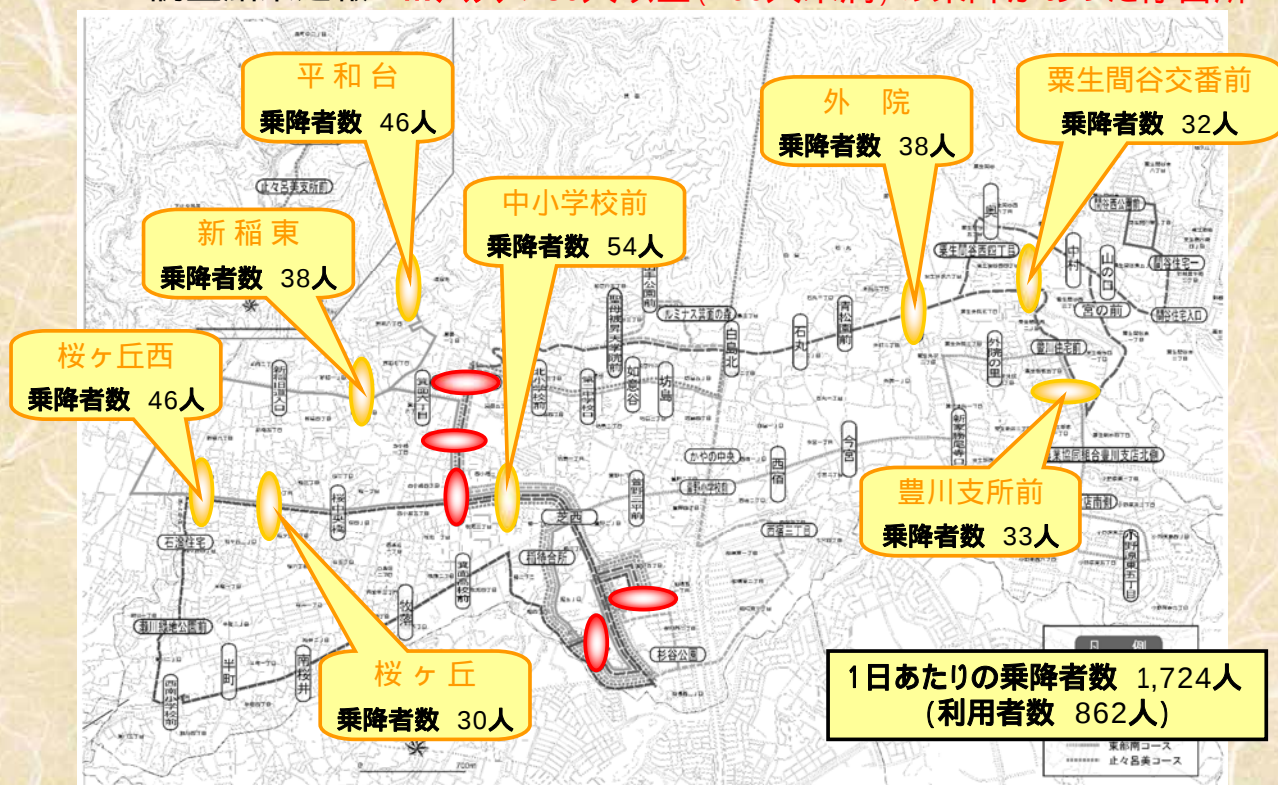
■ 調査結果速報 **Mバス** : 利用者 (乗降) の多い停留所トップ5



8 . 検討に活用する資料 (4-2)

● 平成 2 1 年度 バスOD調査 (Mバス・路線バスの一部)

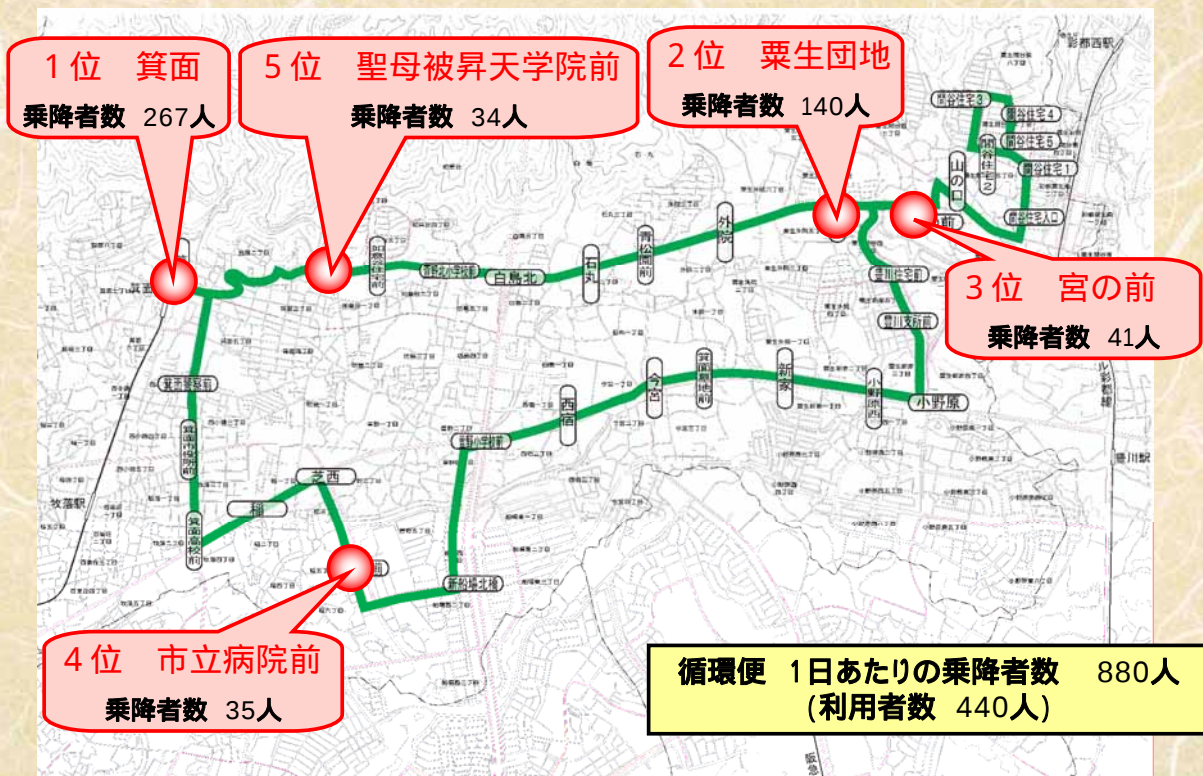
■ 調査結果速報 **Mバス** : 30人以上 (100人未満) の乗降があった停留所



8 . 検討に活用する資料 (4-3)

● 平成 2 1 年度 バスOD調査 (Mバス・路線バスの一部)

■ 調査結果速報 **路線バス** : 利用者(乗降)の多い停留所トップ5



8 . 検討に活用する資料 (5)

● 平成 2 1 年度 自治会アンケート調査

■ 調査対象

市内の全ての自治会 (2 4 3 自治会)

■ 質問項目

- 市内を移動するためのバスの充実度 (充実 不足)
- 市内を移動するためのバスで不足している内容
- 地域のそばにあるバス停の位置
- バスの利用を促進するための方法



現在アンケート調査実施中

集計結果は第 2 回分科会にて